



■昨年 10 月 9 日、札幌教会宣教 100 年記念礼拝の前日に、北海道特別教区女性会では久しぶりの交流会を開催しました。講師に元婦人会連盟（現女性会連盟）会長小泉小枝姉にお越しいただき、「一人の十歩より十人の一歩」と題されたお話を伺いました。会には札幌教会の牧師でいらした浅見先生ご夫妻、星野牧師夫人、フィンランドよりソベリ先生、現連盟会長、副会長もご出席いただき、大変恵まれたひとときとなりました。また熊本からいらした河野久美子姉からも、熊本地震の様子をご報告していただきました。3つの教会をご紹介します。



<札幌教会婦人会>

～札幌教会婦人会の歩みと現在～

時代をさかのぼること 1969 年、札幌教会には婦人会はありませんでした。しかし婦人ならではの活動が必要ではと、牧師を中心に相談会がもたれました。翌年、具体的な運営案がうちだされ、毎月の例会、読書会、仕事会、礼拝後のうどん食堂などの活動がなされてきました。当時は現在の 2～3 倍の婦人会員があり、若夫人会、教会付属幼稚園の保育ボランティアなど、多岐にわたっての活動が行われていました。またエプロンづくりなど、その時代を感じさせるような手仕事会も活発だったようです。

現在、会員数は 15 名、例会とうどん食堂は、昔と変わらない活動です。教会行事の祝会の準備を行ったり、フィリピンのチャイルド支援によりチャイルドからいただく喜びも大きいです。



ただ、ご高齢の方も増え、また働く女性会員も多い時代となり、多くを教会員の方に助けていただきながら歩んでいる実情があります。

寒い冬の朝、うどんの用意も祝会準備も自宅の雪かきをしなければ出かけられず、お互いを気遣いあいながらの準備となっています。今後は時代に即したあり方を考えていく時が来ているように思います。まず、ひとりひとりが霊的に豊かに満たされ、お互いのために祈り合い支えあうことができればと思っています。



<函館教会「野の花の会」>

～歴史と働き～

1964 年（昭和 39 年）当時の日野牧師夫人と増田正子姉が牧師館の居間で座布団を 2 枚敷き、二人で祈りあったのが最初の婦人会でした。1966 年（昭和 41 年）教会バザーが開始され、婦人会が中心となり手作り品を作成、準備をするようになりました。1972 年（昭和 47 年）11 月頃から、定期的な集会（仕事会、聖書研究、家庭集会）を持つようになりまし



た。2004 年（平成 16 年）婦人会は既婚女性の集まりというイメージあり、幅広い層に参加を促すため、『野の花の会』に改称しました。礼拝後の昼食準備をはじめ、祝会や各イベント（函館朝拝会・教区修養会・子供会・コンサートなど）の準備や手伝いをおこなっています。聖壇献花の準備、教会内備品の整理や補修、図書の整理、毎年 11 月には赤カブを漬け、昼食に出しています。



～課題～

高齢化の波は函館教会にも来ており、現在は 50～80 代のメンバーで構成しています。主に活動しているのは仕事をしていない 60～70 代です。バザーや昼食準備も負担を縮小して、お互い出来ることを助け合いながら行っています。今後さらに進むであろう高齢化により、活動を変化せざるを得ない状況が来たときに、主のため・教会のためにどうあるべきか、主に委ねながら、皆でこの問題に向き合っていきたいと思っています。

<帯広教会・すずらの会>

（* 2017 年現在、連盟、教区への登録はしていません）

～会の歴史～

教区女性の会第 1 回総会 1982 年より会員登録しましたが、一度退会。1999 年より再度登録。2000 年 1 月の帯広教会総会后、正式にすずらの会として発足しました。すずらの会の前身は有志の方で CCWA の里子を支える会（ピエタの会）が始まりです。2013 年より、化学療法を受けている患者さんにタオル帽子を作り、クリスマスに病院へ届けています。



～課題～ 日曜日以外は人数も少なく、出来る時に無理なく小さな奉仕を自主的に行っています。